

第3章 旧計画（札幌市温暖化対策推進ビジョン）に基づく取組の総括

1 これまでの目標

札幌市温暖化対策推進計画（区域施策編）においては、温室効果ガス排出量を削減目標としておりますが、市役所では、旧計画（札幌市温暖化対策推進ビジョン）において、「毎年平均1%以上（2009年～2020年で11%）のエネルギー使用量³の削減」という目標を掲げ、エネルギー使用量の削減を中心に温室効果ガス削減に取り組んできました。

目標 毎年平均1%以上（2009年～2020年で11%）のエネルギー使用量の削減

2 旧計画の進捗状況と課題

市役所では、「毎年平均1%以上（2009年～2020年で11%）のエネルギー使用量の削減」という目標を達成するため、旧計画（札幌市温暖化対策推進ビジョン）に記載する10のアクション「札幌市の率先取組」の内容に基づき取組を進めてきましたが、2011年度までは猛暑・極寒などの天候の影響による冷暖房負荷の増加や新規施設の増加などによりエネルギー使用量が増加しました。

市役所の事務事業におけるエネルギー使用の特徴は、電力使用が大半を占めています。

このことから、目標達成のためには、電力使用の削減が重要な課題でありましたが、東日本大震災に伴う原子力発電の運転停止を契機に、市役所一丸となって節電率先取組などを実施したことから、2012年度には電力使用を中心にエネルギー使用量は減少に転じ、2013年度は前年度より2.4%減少しました。

しかしながら、結果として、2013年度は2009年度比1.3%増となり、目標を達成するためには、2020年度には2013年度と比べて26,382kL（原油換算）のエネルギー削減が必要となります。

これらの現状を踏まえ、今後も電力使用の削減を重要な課題として位置づけ、省エネルギー推進及び再生可能エネルギー最大限活用を柱に、エネルギー使用量削減に向けた取組をより一層強化します。

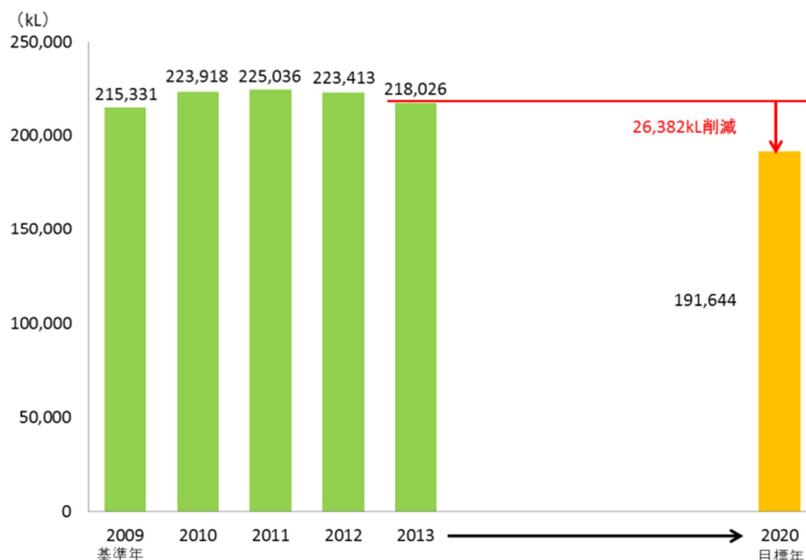


図6 市役所におけるエネルギー使用量（原油換算）の推移

³ 【エネルギー使用量】 電力、燃料の使用量の合計、ここでは、原油換算で表す。